

# 2014年度自己点検・評価報告書(シート)

## 【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

### 《聖和短期大学》

聖和短期大学は、 ☆印の箇所を記入してください。

#### I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素は次のとおりである。

対象部局	聖和短期大学
大項目	0 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標
中項目	
小項目	0.0.1 建学の精神・教育理念が確立していること。
要素	建学の精神が確立し明確に示されているか。 教育理念が確立し明確に示されているか。
小項目	0.0.2 教育目的・教育目標が明確であり点検の努力がみられること。
要素	教育目的もしくは教育目標が全学的に示されているか。 教育目的もしくは教育目標は定期的に点検されているか。 教育目的もしくは教育目標はどのような手続きで点検されているか。
小項目	0.0.3 教育目的・教育目標が共通に理解される努力がみられること。
要素	教育目的や教育目標を全学的に学生や教職員が共有するために具体的な施策を行っているか。 日頃から教育目的や教育目標を実現し共有するための具体的な施策について理事会や教授会で議論しているか。

#### II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

##### 《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。  
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。  
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。  
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 建学の精神および教育理念を関西学院のミッションステートメントのなかで再確認し、記載方法、内容を再検討し、本学の教育・研究等あらゆる活動の指標とする。	→建学の精神、教育理念の記載方法および内容の再検討の進捗状況。	D	C	A	A	A
2. 学生、教職員対象のオリエンテーション、学校礼拝、研修プログラム等とおして、本学のミッション、建学の精神、歴史を学内で共有する。また大学案内パンフレット、教育懇談会、実習協議会、入試説明会等とおして、学外への周知を図る。	→オリエンテーション、学校礼拝、研修プログラム、教育懇談会、実習協議会、入試説明会の実施状況。大学案内パンフレットの記載内容の検討の進捗状況。	C	B	B	A	A
		☆				
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

##### 《進捗状況(達成度)報告》 聖和短期大学は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	A	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、どのようにして、どれだけ取り組んできたか。 本学の建学の精神・教育理念について、関西学院のミッションステートメントのもとで確認する作業を2010年度より始めた。教職員合同の研修会において協議を始め、グループおよび全体討議を重ねて、2011年度に聖和短期大学の「めざす人間像」「めざす短期大学像」を制定するに至った。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か。 新たに制定した「めざす人間像、短期大学像」に基づき、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー等を定め、本学の教育活動の指標としている。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か。 建学の精神・教育理念、教育目標、めざす人間像・短期大学像等が本学の教育・研究等の指標となっているかについて、次年度に向けた要覧、大学案内パンフレット等の作成時に各委員会や教授会で定期的に点検を行う。	☆
		その他	☆

目標2	A	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、どのようにして、どれだけ取り組んできたか。 学内に対しては、入学式、入学時のオリエンテーション、学校礼拝等をおとして、本学のミッション、建学の精神・教育理念、教育目標、めざす人間像等の周知に取り組んでいる。また、院長を講師に招き、冊子『輝く自由～関西学院 その精神と理想』をもとに教職員合同の研修会を実施した。学外に対しては、保護者対象の教育懇談会、実習園を対象とした実習協議会、高校教員対象の入試説明会等において説明し、周知を図った。要覧、履修の手引き、大学案内パンフレット、非常勤講師用の教務手帳等にも記載している。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か。	
		「めざす人間像」「めざす短期大学像」を制定するプロセスのなかで、教職員が建学の精神・教育理念、教育目的・目標について再確認し、関西学院のミッションステートメントのもとで本学の教育理念、目標等について思いを新たにすることができた。また院長を講師とした教職員合同の研修会をおとして、関西学院のミッションについて理解を深めることができた。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か。 学内外へのさらなる周知を図るために、理解しやすい説明の仕方や印刷物への記載方法等について工夫をしていく。本学の教育の根幹となる精神・理念、ミッション等に関する教職員対象の研修会を継続的に開催し、理解の深化と共有化を進める。	☆
		その他	☆
備考			☆

# 2014年度自己点検・評価報告書(シート)

【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

《聖和短期大学》

聖和短期大学は、     ☆印の箇所を記入してください。

## I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素は次のとおりである。

対象部局	聖和短期大学
大項目	1 教育の内容
中項目	
小項目	1.0.1 教育課程が体系的に編成されていること
要素	教育課程には建学の精神や教育理念が反映され、またその内容はそれぞれの学科等の教育目的や教育目標に基づいたものであるか。 教育課程には教養教育への取組みがなされているか。 教育課程は短期大学の専門教育として十分な内容を備えているか。 教育課程の主要な科目に専任教員が適切に配置されているか。 それぞれの授業は短期大学にふさわしい内容とレベルを有しているか。 それぞれの授業の単位認定と評価は適切に行われているか。 教育課程改善への意欲は十分か。また教育課程改善への組織的な対応はなされているか。
小項目	1.0.2 教育課程が学生の多様なニーズに応えるものとなっていること
要素	教育課程には免許・資格等の取得への配慮がなされているか。 教育課程の授業形態(講義、演習、実験・実習等)はバランスがとれているか。 教育課程は必修と選択のバランスが適切であり、また選択科目は学生に選択の自由を保障しているか。 それぞれの授業内容に応じたクラス規模は適当であるか。 卒業要件は適切であり、その要件は学生に理解しやすい表現となっているか。 それぞれの授業について学生は意欲を持って履修できるように工夫しているか。
小項目	1.0.3 授業内容、教育方法及び評価方法が学生に明らかにされていること
要素	シラバスあるいは講義要項等が作成され、事前に学生に配付されているか。また学生は活用しているか。 シラバスあるいは講義要項等は授業の概要を示す十分な内容を有しているか。また学生に理解しやすい表現になっているか。 それぞれの授業には教科書、参考書等が用意され、また参考文献等が示されているか。
小項目	1.0.4 授業内容、教育方法に改善への努力がみられること
要素	学生による授業評価が定期的に行われ、その評価結果が授業改善のために活用されているか。 短期大学全体の授業改善(FD活動等)への取組みは活発か。また授業改善のための組織等が設置され活発に活動しているか。 それぞれの授業の担当教員は授業改善への意欲を持っているか。 授業担当者間での意思の疎通、協力・調整はなされているか。また兼任教員(非常勤講師)との意思の疎通はなされているか。 授業改善や教員の能力開発のための経費は準備されているか。 授業改善を支援する職員の研修(SD活動等)は、定期的に行われているか。

## II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

### 《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。  
B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。  
C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。  
D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

	2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
			2009	2010	2011	2012	2013
1.	教育目標にもとづいた教育課程編成の方針の明示。	→教育課程編成の方針の明文化、「要覧」「履修の手引き」への記載、履修指導の説明の時間等の充実	C	C	A	A	A
2.	実践力を培うために保育現場と連携した授業実施。	→保育現場と連携した授業内容の検討及び実施状況。	C	B	B	A	A
3.	保育職の専門性向上のため、旧教員・卒業生などの積極的活用。	→旧教職員・卒業生などとの連携状況。	C	B	B	A	A
4.	シラバスの記載内容の充実、不完全シラバスをなくす。	→不完全シラバス数、シラバス記載内容の変更。	C	B	A	A	A
							☆
	2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
5.	FD検討会の活性化、学外研修などの活用により、現状以上に授業を改善する	→FD検討会の内容、方法の再検討、全国保育士養成協議会主催のセミナーおよび研究会への積極的な参加、研究発表など	C	C	B	B	A
		→					

《進捗状況(達成度)報告》 聖和短期大学は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	A	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、どのようにして、どれだけ取り組んできたか。</p> <p>教育課程編成の方針について、2011年度、関西学院のミッションステートメントのもと、本学の建学の精神や教育目標である「キリスト教精神にもとづく豊かな人間性、専門性、実践力を兼ね備えた保育者の育成」にもとづき、カリキュラムポリシーとして明文化した。それを「要覧」「履修の手引き」に記載し、履修指導の際に説明を行った。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か。</p> <p>カリキュラムポリシーを制定し、「要覧」「履修の手引き」に記載したことにより、履修指導の際、本学の教育課程の編成や教育方針がどのような精神にもとづいて行われているのかを周知させることができた。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か。</p> <p>今後は、履修指導の時にとどまらず、オープンキャンパスや、入学後の保護者との教育懇談会、高校教員への入試説明会、非常勤講師との懇談会の時などに本学のカリキュラムポリシーについて説明する機会を設け、学内外に向け、本学の教育課程の編成や教育方針がどのような精神にもとづいて行われているのかについて周知に努めたい。</p> <p>その他</p>	<p>☆</p> <p>☆</p> <p>☆</p> <p>☆</p>
目標2	A	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、どのようにして、どれだけ取り組んできたか。</p> <p>幼稚園教諭二種免許状取得のためには、15日間の「幼稚園実習」、保育士資格取得のためには、10日間の「施設実習」、20日間の「保育所実習」が必要である。さらにこれらの外部での実習の前に、本学の独自科目である「教育保育参観実習」を半期間にわたり実施している。これらの授業を展開するために、幼稚園長や児童福祉施設長などが非常勤講師として担当している。また外部講師として保育現場経験者を招いて講演を聞くなどしている。また、保育者としての基礎を獲得し、意欲を高めるために、入学後すぐに「基礎演習」の授業で、聖和幼稚園の保育者の指導のもと、行事の準備・運営を行い、保育現場と連携した授業を実施している。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か。</p> <p>実習に関する授業において幼稚園長や児童福祉施設長などが非常勤講師として担当したり、保育現場経験者の講演会を開催することにより、現在の保育現場の実状や保育現場で必要とされている実践力について学生が知る機会とすることができた。また、聖和幼稚園と連携した「基礎演習」の授業で、「夕涼み会」の行事について準備の段階から当日の運営まで携わることにより、保育者から直接指導を受けたり、園児との関わりをとおして、保育現場で必要とされる実践力やコミュニケーション能力、対人援助技術などについて学ぶことができた。この機会に学んだことや反省点を明確にし、秋学期からの本格的な実習に向けて学生の意識を高めるようにすることが課題である。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か。</p> <p>今後、さらに現場の幼稚園長や児童福祉施設長などの非常勤講師や外部講師から指導を受け、現在の保育現場の実状や保育現場で必要とされている実践力について学生が学ぶ機会を設けたい。また授業で聖和幼稚園の保育者の保育を参観したり、運動会やクリスマス礼拝などの行事に参加したり、聖和幼稚園の預かり保育に参加するなどし、学生の学びの機会を増やすことに努めたい。</p> <p>その他</p>	<p>☆</p> <p>☆</p> <p>☆</p> <p>☆</p>
目標3	A	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、どのようにして、どれだけ取り組んできたか。</p> <p>保育職の専門性向上のために、実習の事前事後指導の授業や、就職指導、礼拝等で、現場で活躍している卒業生に話をしてもらい機会を設けている。また、一部の科目では卒業生が非常勤講師として担当している。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か。</p> <p>現場で活躍している卒業生に実習の事前事後指導や就職指導、礼拝等で話をしてもらい機会をもつことによって、学生は机上の学びにとどまらず、現在の保育現場の様子を知ることができた。また、卒業生が非常勤講師として担当している科目については、教科内容に加え保育現場の現状や課題となっていることを知る機会となった。卒業生の話を聞くだけにとどまらず、学生と卒業生が意見交換をする時間をつくるなどし、さらに学生の保育への意識を高めることにつなげることが課題である。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か。</p> <p>今後はさらに、保育現場で活躍する卒業生を積極的に招いて、保育現場の現状や課題を話してもらい機会を設けたり、卒業生が勤務する保育現場を訪れるなどし、卒業生との関わりをとおして学生と保育現場のつながりを持ち、学生の学びの機会を増やすことに努めたい。</p> <p>その他</p>	<p>☆</p> <p>☆</p> <p>☆</p> <p>☆</p>

目標4	A	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、どのようにして、どれだけ取り組んできたか。</p> <p>2013年度のシラバスより、記載内容を「授業のテーマ・ねらい」「到達目標」「授業計画」「成績評価基準」「テキスト」「準備学習の内容」と変更した。シラバス作成に向け、専任教員に対しては教授会であらためてシラバスの目的および変更点について説明し、非常勤講師に対しても、シラバス作成に際し、文書で説明して依頼し、周知徹底した。また、各科目担当者に対し、初回授業時にシラバスをもとに授業内容や成績評価基準について説明をするよう依頼した。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か。</p> <p>各科目のシラバスの記載について、教務担当者が教授会で記載内容の統一を図ることを説明し、文部科学省や厚生労働省から求められている教科内容に沿った記載方法や内容を確認したことで、不完全シラバスをなくすことができた。シラバスの記載内容を充実させたことにより、各科目のねらいや目標等が明確になり、授業内容の充実につながった。また学生も、授業内容や成績評価方法などについてより理解しやすくなった。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か。</p> <p>今後もシラバスを記載する際に、各科目担当者に見直しを依頼するとともに、各科目において実施すべき内容となっているかの点検を行い、より充実した内容としたい。また、今後も各科目の初回授業時にシラバスをもとに授業内容や成績評価方法を説明し、学生の授業への理解や意欲につなげることを徹底したい。</p> <p>その他</p>	<p>☆</p> <p>☆</p> <p>☆</p> <p>☆</p>
目標5	A	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、どのようにして、どれだけ取り組んできたか。</p> <p>FD検討会を7月、9月、10月、2月の計4回実施し、ほぼ全員が参加した。内容については、京都FD開発センター作成の「FDハンドブック」をテキストに授業方法等について話し合い、また授業評価アンケートの結果の活用やアンケート項目の改善について検討を行った。社団法人全国保育士養成協議会主催のセミナーおよび研究大会で4名が発表を行った。2013年度は、シラバスの意義および記載すべき内容について検討し、より学生にわかりやすいシラバス作成に努めた。また、アンケート結果をもとに、非常勤講師を含めた全教員に授業改善の取り組みについて調査を行った。さらに、教務委員会の中にFD部会を設け、FD検討会の充実に努めた。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か。</p> <p>FD検討会の開催にあたって教務委員会で内容を検討し、テキストの活用や授業改善のための取り組みの一環として授業評価アンケートについて検討を行った結果、活発に意見交換し、アンケート項目の改善ができた。また、アンケート結果をもとに、非常勤講師を含めた全科目担当者に授業改善の取り組みについて調査を行い、授業内容、教育方法の改善に向けた努力ができた。今後、関西地区FD連絡協議会主催の研修会等への参加をととして、他大学の取り組みを参考にし、学内のFD検討会の内容を充実させることが課題である。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か。</p> <p>今後も引き続き、関西地区FD連絡協議会主催の研修会への参加をととして他大学の取り組みについて学び、FD検討会で取り組む内容についてFD部会で検討し、授業改善に向けて努力したい。また、FD検討会で各科目担当者の授業改善への取り組みについて発表したり、授業を見学する機会を設けて意見交換するなど、授業改善に向けた取り組みを行いたい。</p> <p>その他</p>	<p>☆</p> <p>☆</p> <p>☆</p> <p>☆</p>
備考			☆

# 2014年度自己点検・評価報告書(シート)

【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

《聖和短期大学》

聖和短期大学は、     ☆印の箇所を記入してください。

## I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素は次のとおりである。

対象部局	聖和短期大学
大項目	2 教育の実施体制
中項目	
小項目	2.0.1 教員組織等が整備されていること
要素	設置基準の教員数の規定(教授数を含む)を充足しているか。 教員は学位、教育実績、研究業績、制作物発表、その他の経歴等、短期大学の教員にふさわしい資格と資質を有しているか。 教員の採用、昇任はその選考基準等が整備され適切に行われているか。 教員の年齢構成はバランスが取れているか。 教員は、(a) 授業担当、(b) 研究活動、(c) 学生指導、(d) その他教育研究上の業務に意欲的か。 助手、補助職員等が確保され、教育活動等に機能しているか。 教育実施にあたる責任体制は確保されているか。
小項目	2.0.2 教育環境が整備・活用されていること
要素	保有する校地の面積は設置基準の規定を充足しているか。また校地は教育環境として適切に整備されているか。 保有する校舎の面積は設置基準の規定を充足しているか。また校舎は授業や学生生活のために常に整備され快適な環境となっているか。 それぞれの授業を行うにふさわしい講義室、演習室、実験・実習室を十分に用意しているか。 それぞれの授業を行うにふさわしい情報機器を設置するパソコン教室、マルチメディア教室、L L教室は整備されているか。また学生自習室等は整備されているか。 授業用の機器・備品についてその整備システムが確立しているか。また、それぞれの授業を行うための機器・備品は十分に備わっているか。 保有する校地と校舎は学生や教職員の安全性に配慮しているか。また障害者に対応したのものとなっているか。 適切な広さの運動場、体育館を有しているか。
小項目	2.0.3 図書館もしくは学習資源センター等が整備されていること
要素	図書館(以下、学習資源センター等を含む)の蔵書数、学術雑誌数、AV資料数及び座席数等は、在籍学生数に比し適当か。 図書館の広さは充分であり、その環境は適切に整備されているか。また蔵書数の増加等、将来に備えたものとなっているか。 年間の図書(以下、学術雑誌、AV資料等を含む)購入予算は充分か。また購入図書選定システムや廃棄システムは確立しているか。 図書館には学生が利用できる参考図書、関連図書は十分に備えられているか。 司書数、司書の能力、図書検索システムなどを含む、図書館のサービス体制は充分か。 学生の図書館利用を促進するための努力は行っているか。 学内外への情報発信、他の図書館との相互利用活動など、図書館活動は活発か。

## II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

### 《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。  
B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。  
C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。  
D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 教育実績、研究業績、社会的活動等短期大学教員として必要な資質の向上	→研究活動、社会的活動に関する報告書提出の徹底および情報公開の実施	C	B	B	A	A
2. 学生の図書館活用能力を向上させ、短期大学図書館の入館者数、貸出冊数を1.5倍にする	→オリエンテーションの実施状況およびアンケート調査結果、入館者数、貸出冊数、ホームページ、OPAC、電子ジャーナルへのアクセス数等	C	B	B	B	A
★						
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013

《進捗状況(達成度)報告》 聖和短期大学は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	A	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、どのようにして、どれだけ取り組んできたか。 教員の研究活動については、2009年度より全教員が年度初めに研究計画書、研究報告書を提出していたが、2011年度よりさらにその内容を詳しく、研究課題、研究計画、個人研究費支出計画を記載した「個人研究費計画書」と、研究結果の概要、研究成果の今後の活用・提供、年度中に外部補助を受けた研究費、著書、学会発表、個人研究費支出実績を記載した「個人研究費研究経過(成果)報告書」を提出している。社会活動については、兼業申請や講師派遣依頼状の提出などで把握している。また教員の研究活動および社会活動については、本学公式ホームページ上で情報を公開している。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か。 過去5年間の業績が重視される中、毎年、「個人研究費計画書」「個人研究費研究経過(成果)報告書」を提出することにより、研究に対する意識が変化してきている。ただし個人差があるため、全教員の研究活動の活性化が課題である。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か。 幼稚園教員養成課程および保育士養成課程をもつ本学の教員の業績として、特に担当する授業に関する研究が求められている。短期大学全体の教育の質を向上させるため、担当する授業に関する研究の活性化を図る	☆
		その他	☆
			☆
目標2	A	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、どのようにして、どれだけ取り組んできたか。 学生を対象に図書館活用ガイダンス等を実施し、文献入手や調査の方法を指導した。また調査に悩む等の学生や教員のニーズに合ったレファレンスも実施している。また、新入生を対象に図書館活用のためのオリエンテーションを全クラスに実施し、実施後のアンケートには7割の学生が図書館利用への意欲を回答するなど、着実に効果を上げている。更に様々なテーマに沿った資料の特設コーナーを設け、学生の興味・関心、学習意欲を刺激することで、より貸し出しの機会につながる方策にも取り組んだ。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か。 入館者数は、2009年度の28,526人(※)から2013年度の68,611人へ、2.41倍に増加した。また、貸出冊数は、16,751冊から28,288冊へ、1.69倍に増加した。 短期大学生に限定すれば、入館者数は2009年度の4,903人から2013年度の9,789人への2倍に、貸出冊数は3,480冊から5,343冊への1.5倍に増加している。以上のように目標達成に対する取り組みは着実に効果を上げ、今年度は目標を達成することが出来た。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か。 今年度は目標とした数値を上回ることが出来たが、「Do」における取組は今後も継続し、また貸し出しデータ等を詳細に分析することで学生のニーズに合った選書を行い、入館者数や貸し出し冊数の更なる向上につなげていきたい。	☆
		その他	☆
		特になし	☆
備考			☆

# 2014年度自己点検・評価報告書(シート)

## 【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

### 《聖和短期大学》

聖和短期大学は、 ☆印の箇所を記入してください。

#### I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素は次のとおりである。

対象部局	聖和短期大学
大項目	3 教育目標の達成度と教育の効果
中項目	
小項目	3.0.1 教育目標の達成への努力がみられること
要素	それぞれの授業の単位認定の方法(試験、レポートや制作物の提出等)は適切か。また単位の取得状況は妥当な範囲であり、担当教員による学習評価は適切に行われているか。 担当教員は、授業終了後の学生の満足度に配慮しているか。 退学、休学、留年等の学生の全体の学生に占める状況は妥当な範囲か。またそれらの学生に対するケアは充分か。 資格取得の取組みと実績は充分であるか。 編入学希望に対応しているか。
小項目	3.0.2 学生の卒業後評価への取組みの努力がみられること
要素	専門就職(学習した分野に関連する就職)の割合は充分か。 卒業生の就職先からの評価について意見を聴取しているか。 教育の実績や効果を確認するために卒業生との接触、同窓会との連携等は行われているか。 編入先からの評価について意見を聴取しているか。

#### II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

##### 《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。  
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。  
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。  
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 学生による授業評価アンケートの内容を再検討し、授業評価方法の改善を行う	→全授業科目の授業評価アンケートの実施、内容の検討状況	C	C	C	B	A
2. 免許・資格を取得するための個別的な指導と支援を強化し、実績を維持する	→希望者の免許・資格取得の割合、ガイダンスの実施(回数及び参加者数)	C	B	A	A	A
3. 卒業生に対する就職先からの評価方法の検討および実施	→評価方法の検討と進捗状況	D	D	C	B	B

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					



【進捗状況(達成度)報告】 **聖和短期大学は「指標」に基づいた報告をしてください。**

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	A	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、どのようにして、どれだけ取り組んできたか。 全科目について授業評価アンケートを実施した。授業評価アンケートの再検討については、FD検討会でその方法や内容について議論をし、また非常勤講師を含む全教員に対してアンケート調査を実施した。これらの結果をもとに2013年度の授業評価アンケートを作成し、実施した。また専任教員および非常勤講師に対して、授業評価アンケートの結果を踏まえて改善目標とすることについて調査を実施した。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か。 授業評価アンケートの内容について再検討し、項目の整理をした結果、アンケート項目を大きく「学生自身について」と「授業内容について」の2つに分けて記載し、学生が答える際に混乱しないようにすることができた。また全授業科目においてアンケートを実施し、各科目担当者に対し、授業評価アンケートの結果を踏まえた改善目標について調査を行った結果、各科目担当者の学生の授業評価に対する真摯な受け止めや改善に向けた取り組みへの姿勢が見られた。今後は、学生への授業評価アンケートの意味や評価方法の周知や実施の時期などについて検討することが課題である。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か。 今後も引き続き、全授業科目における授業評価アンケートの実施を行い、学生からの評価を真摯に受け止め、授業改善に取り組んでいきたい。また、アンケート項目についても、定期的な見直しをし、より適切な項目としていくこと、授業評価アンケートをする時期を検討することを課題とし、取り組んでいきたい。</p> <p>その他</p>	★
目標2	B	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、どのようにして、どれだけ取り組んできたか。 2010年度免許・資格取得状況は、卒業生155名中、幼稚園教諭二種免許状144名(92.9%)、保育士資格130名(83.9%)、児童厚生二級指導員資格51名(32.9%)、認定ベビーシッター資格98名(63.2%)であった。 2011年度免許・資格取得状況は、卒業生149名中、幼稚園教諭二種免許状146名(97.9%)、保育士資格130名(87.2%)、児童厚生二級指導員資格81名(54.3%)、認定ベビーシッター資格116名(77.8%)であった。 2012年度免許・資格取得状況は、卒業生159名中、幼稚園教諭二種免許状154名(96.8%)、保育士資格141名(88.6%)、児童厚生二級指導員資格67名(42.1%)、認定ベビーシッター資格128名(80.5%)であった。 2013年度免許・資格取得状況は、卒業生163名中、幼稚園教諭二種免許状150名(92.0%)、保育士資格138名(84.6%)、児童厚生二級指導員資格47名(28.8%)、認定ベビーシッター資格94名(57.6%)であった。 過去5年間に於いて、履修ガイダンスについては、年度初めのオリエンテーションで全体への履修指導および個別の履修相談の時間を設け、ほぼ全員が参加した。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か。 希望者の免許・資格取得の割合については、幼稚園教諭二種免許状は9割以上、保育士資格は8割以上を維持することができた。児童厚生二級指導員資格や認定ベビーシッター資格については、希望者数は年によって違いはあるが、希望者はほぼ資格の取得に至っている。これは、本学の学生が免許・資格を取得することを目的としているため、授業への出席率の高さや授業や課題への取り組みの意識の高さの成果であるといえる。履修ガイダンスについても、ほぼ全員が参加した。また、履修登録のミスがあった学生や個別にガイダンスが必要な学生については個別指導に努め、履修登録を完了させて授業をスタートすることができた。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か。 今後も、履修ガイダンスで免許・資格取得について丁寧に説明を行い、取得率の維持に努めたい。また、児童厚生二級指導員や認定ベビーシッター資格についても、それぞれの資格取得に向けた具体的な説明を行ったり、現在児童厚生指導員やベビーシッターとして勤務している保育者の話を聞く機会を設けるなどし、取得希望者を増やすよう努めたい。</p> <p>その他</p>	★

目標3	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、どのようにして、どれだけ取り組んできたか。</p>	
	<p>卒業生に関する評価や情報について聴取する内容が統一されていないため、聴取項目について検討中である。ただし今年度もキャリアセンター職員による就職先訪問や、教員による実習先訪問時に、卒業生の近況について聴取は行った。また兵庫県や大阪府の幼稚園・保育所・施設などの各種団体と養成校との懇談会にも出席し、情報交換の機会をもっている。編入生の評価については、関西学院大学教育学部と懇談を行い、編入生の成績および進路の状況、今後のシステムのあり方などについて協議した。</p>	☆
	<p>C 前年度の卒業生に対し、キャリアセンター分室の職員が就職先を訪問し、卒業生の勤務状況等について聴取をし、概ね良い評価を受けることができた。また本学では、教育実習および保育実習担当の非常勤講師を含めて全教員で実習先に視察訪問を行っており、概ね良い評価を受けることができた。毎年行っている実習協議会においても、出席した就職先の園長等から、卒業生の近況等を聞いた。また兵庫県や大阪府の幼稚園・保育所・施設などの各種団体と養成校との懇談会にも積極的に出席し、情報交換の機会をもつことができた。保育現場からは、新卒者の生活経験に関することや実践力、コミュニケーション能力などが不足していることが指摘されたため、今後も養成課程において指導に努める必要がある。</p>	☆
	<p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か。</p>	
	<p>前年度の卒業生に対し、キャリアセンター分室の職員が就職先を訪問し、卒業生の勤務状況等について聴取し、概ね良い評価を受けることができた。また教育実習および保育実習の実習先訪問時や、毎年開催している実習協議会においても卒業生について聴取する機会を得ている。また兵庫県や大阪府の幼稚園・保育所・施設等の各種団体と養成校との懇談会にも積極的に出席し、情報交換の機会をもつことができた。保育現場からは、新卒者の生活経験やコミュニケーション能力の不足等が指摘されており、養成課程における課題となっている。</p>	☆
備考	<p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か。</p> <p>今後は、卒業生に対する評価や近況の情報について聴取する方法について、キャリアセンター分室の職員とも検討をし、卒業後数年間にわたり状況の把握に努めたい。また、養成課程で学んでおいて役に立った点や学んでおきたかった点についてアンケート調査を行うなどし、保育現場で必要とされることを指導内容に取り入れ、卒業後の評価向上につなげたい。</p>	☆
	<p>その他</p>	☆
		☆

# 2014年度自己点検・評価報告書(シート)

【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

《聖和短期大学》

聖和短期大学は、 ☆印の箇所を記入してください。

## I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素は次のとおりである。

対象部局	聖和短期大学
大項目	4 学生支援
中項目	
小項目	4.0.1 入学に関する支援が行われていること
要素	短期大学案内には建学の精神・教育理念や教育目的・教育目標、望ましい学生像等が明示されているか。 募集要項には入学選抜の方針、多様な選抜方法(推薦、一般、AO選抜等)が分かりやすく記載されているか。 広報もしくは入試事務の体制が整備され、受験生の問い合わせ等に対して適切に対応できているか。 多様な選抜が公正かつ正確に実施されているか。 入学手続者に対し入学までに授業や学生生活についての情報を提供できているか。 入学者に対し学習、学生生活のためのオリエンテーションは適切に行われているか。
小項目	4.0.2 学習支援が組織的に行われていること
要素	特に学習の動機づけに焦点をあわせた学習や科目選択のためのガイダンス等が適切に行われているか。 学生便覧等、学習支援のための印刷物が発行されているか。またそれらの印刷物は学生に理解しやすいものとなっているか。 基礎学力が不足する学生に対し、補習授業等の学習支援に対する組織的な取組みに努めているか。 学習上の悩みなどの相談にのり、適切な指導助言を行う体制が整備されているか。 進度の早い学生や優秀学生に対する学習上の配慮や学習支援を行っているか。
小項目	4.0.3 学生生活支援体制が整備されていること
要素	生活支援のための教職員の組織(学生指導、厚生補導等)が整備されているか。 クラブ活動、学園行事、校友会など、学生が主体的に参画する活動が活発に行われ支援体制も確立しているか。 休息空間、保健室、学生相談室、食堂、売店の設置等、学生のキャンパス・アメニティへの配慮は充分か。 宿舎が必要な学生に適切な支援(学生寮、宿舎の斡旋等)は行われているか。また通学のための便宜(通学バスの運行、駐輪場・駐車場の設置等)は図られているか。 奨学金等、学生への経済的支援のための制度は用意されているか。 学生の健康管理、メンタルケアやカウンセリングの体制は整っているか。 学生個々の記録が作成されているか。またその記録は適切に保管されているか。 学生生活に関して学生の意見や要望の聴取に努めているか。
小項目	4.0.4 進路支援が行われていること
要素	就職支援のための教職員の組織が整備され適切に活動しているか。 就職支援室等が完備され、学生に必要な情報が提供できているか。 就職のための資格取得、就職試験対策などの支援はなされているか。 就職内定率(3/31現在)は充分な水準か。 その他、進学、留学に対する支援は充分になされているか。
小項目	4.0.5 多様な学生に対する特別な支援が行われていること
要素	留学生の学習(日本語教育等)及び生活を支援する体制は整っているか。 社会人学生の学習を支援する体制は整っているか。 障害者の受入れが可能な施設を整備する等、障害者への支援体制は整っているか。 長期履修生を受入れる体制は整っているか。

## II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

### 《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。  
B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。  
C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。  
D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 受験生が理解しやすく魅力を感じる大学案内パンフレット、ホームページ等、広報の検討	→ 大学案内パンフレット、ホームページの作成に在学生や卒業生の意見、アイデアを取り入れる。	C	B	B	B	A
2. 入学までの情報提供および入学前教育の充実	→ 入学予定者対象パンフレットの再検討、ピアノの実技能力向上のためのプログラムの検討	D	C	B	B	B
3. アンケート調査などによる学生生活の現状把握	→ 在学生を対象として学生生活全般に対するアンケート調査の実施および課題の分析の進捗状況	D	D	B	B	B
4. 進路選択時の情報提供を徹底し、アドバイザー制度の活用を推進する	→ 「進路希望調査カード」の再検討の進捗状況、アドバイザーへの相談および指導内容の分析	C	C	B	B	B

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
→	→					
→	→					

## 《進捗状況(達成度)報告》 聖和短期大学は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	A	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、どのようにして、どれだけ取り組んできたか。 大学案内パンフレットは学生の視点を重視して作成している。受験生により身近に本学を理解してもらえるように、在学生や卒業生の声などを多く記載し、その意見やアイデアを取り入れるようにしている。課題であったホームページについてのアンケート調査を2013年度のオープンキャンパスにおいて実施した。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か。 本学のホームページについてのアンケート調査の結果、見やすく、情報量も十分であるとの評価を得ることができた。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か。 2014年度のホームカミングデーでは卒業生から意見聴取を行い、オープンキャンパスにおいても引き続き高校生にアンケート調査を行う。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆
目標2	B	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、どのようにして、どれだけ取り組んできたか。 入学手続き者に対しては、「入学手続きの手引き」「入学までのご案内」を送付し、オリエンテーションプログラム、奨学金等、授業や学生生活について事前に情報を提供しているが、これらの情報を1冊にまとめた入学予定者対象パンフレットを、次年度に向けて検討中である。また入学前教育については、課題図書による感想文の提出を求め、全教員が分担して評価した。また漢字検定2級程度の事前学習を促し、入学後にテストを実施する他、全員にピアノについてのアンケートを実施し、それぞれの経験に合わせたアドバイスをを行い、ピアノ経験の少ない者に対してはピアノレッスンを実施して実技能力の向上を図っている。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か。 入学手続き者に対する情報を1冊にまとめたパンフレットはまだ検討中である。入学前教育については、課題図書による感想文と漢字テストの結果を分析し、教授会で共有している。また結果を1年生アドバイザーに配付し、入学後の学生の学習指導に活かしている。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か。 五年間実施した入学前教育を総括し、次年度に向けて入学前教育プログラムの見直しを行う。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆
目標3	★	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、どのようにして、どれだけ取り組んできたか。 学生生活に関して学生の意見や要望を聴取するため、2011年度より3年間にわたり「短大調査(JJCSS)」を実施した。調査結果については、報告書を作成し、非常勤講師を含む教員全員に配付し、説明を行った。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か。 「短大調査」により、本学学生の現状や傾向等を把握することができたが、課題の分析については、現在、引き続き検討中である。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か。 3年間の調査結果を分析し、見えてきた課題を学習支援、生活支援、就職支援等、具体的な学生支援に繋げていく。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆

目標4	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、どのようにして、どれだけ取り組んできたか。</p> <p>学生の実習の希望把握のため半年ごとに進路希望調査を行っている。また2年生の4月には聖和キャンパスキャリアセンター作成の「進路調査票」に記入し、それを基にアドバイザーとキャリアセンターが進路指導にあたっている。2年生アドバイザーは、特に秋学期は情報を密にするためほぼ毎週担当者会を実施し、相談及び指導内容について話し合いを行っている。</p>	☆
	<p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か。</p> <p>「進路調査票」の記載内容については十分な見直しができていない。2年生アドバイザーは、特に秋学期は進路に関する情報を密にするため、ほぼ毎週担当者会を実施し、キャリアセンターと連携して学生の相談及び指導内容について話し合いを行っており、その結果、就職率100%に繋がっている。</p>	☆
	<p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か。</p> <p>「進路調査票」の記載内容について見直し、さらに学生指導に活かしやすい内容等を検討する。学生の進路に関する相談内容について分析し、学生の現状を踏まえた就職指導のあり方についてさらに検討する。</p>	☆
	その他	☆
		☆
備考		☆

# 2014年度自己点検・評価報告書(シート)

【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

《聖和短期大学》

聖和短期大学は、 ☆印の箇所を記入してください。

## I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素は次のとおりである。

対象部局	聖和短期大学
大項目	5 研究
中項目	
小項目	5.0.1 教員の研究活動が展開されていること
要素	教員の研究活動(論文発表、学会活動、国際会議出席等、その他)は成果をあげているか。 教員各個人の研究活動の状況が公開されているか。 科学研究費補助金等の申請・採択、研究費の外部からの調達は実績があがっているか。 教員あるいは教員グループの担当授業科目に関する研究や教育実践及びその成果についての報告が奨励されているか。
小項目	5.0.2 研究活動の活性化のための条件整備が行われていること
要素	教員の研究に係る経費の支出は充分か。また研究経費についての規程が整備されているか。 教員の研究成果を発表する機会(研究紀要の発行等)は確保されているか。 教員の研究に係る機器、備品、図書等は充分か。 教員が研究を行うにふさわしい教員室、研究室または研修室が整備されているか。 教員には研究日(研修日)等、教員が研究を行うに十分な時間の確保に配慮がされているか。

## II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

### 《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。  
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。  
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。  
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 学内研究会活動の推進	→ 聖和保育教育研究会等の開催状況	C	B	A	A	A
2. 研究紀要の発行(年一回発行)	→ 研究紀要(聖和論集)の発行状況、発行回数	C	B	A	A	A
3. 科研費等による研究の奨励	→ 科研費等による研究への応募および採択状況	C	C	B	A	A

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

### 《進捗状況(達成度)報告》 聖和短期大学は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	A	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、どのようにして、どれだけ取り組んできたか。 聖和保育教育研究会は、毎年1回の研究発表会を開催した。研究発表件数については、2010年度4件、2011年度4件、2012年度3件、2013年度4件となっている。 キリスト教教育・保育研究センターでは、下記のように研究会を開催した。2010年度3回、2011年度3回、2012年度4回、2013年度3回	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か。 聖和保育教育研究会については、2009年の発足より4年が経過し、毎年「聖和論集」を発行し研究発表会を開催するなど研究会活動も安定してきた。キリスト教教育・保育研究センターは、関西学院大学神学部および教育学部教員、聖和幼稚園教員も研究員となっており、キリスト教主義幼稚園・保育所、教会などで働く卒業生や保育者も参加して積極的に研究会が行われているが、今後、広報について再検討する必要がある。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か。 聖和保育教育研究会については、今後も「聖和論集」の発行と研究会開催を毎年実施し、研究会活動を活性化させる。キリスト教教育・保育研究センターについては、公開講座や研究会の広報のあり方を再検討する。	☆
		その他	☆
			☆

目標2	A	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、どのようにして、どれだけ取り組んできたか。 聖和論集は毎年1回発行され、掲載論文数は次のとおりである。2010年度7件、2011年度5件、2012年度10件、2013年度3件。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か。 聖和論集の発行については、年度によって投稿論文数にばらつきがあり、今後の課題となっている。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か。 積極的に投稿を呼びかけ、掲載論文数増を図る。	☆
		その他	☆
目標3		Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、どのようにして、どれだけ取り組んできたか。 科研費等による研究の採択状況は下記のとおりである 2011年度 財団法人子ども未来財団平成23年度児童関連サービス調査研究等事業 1件 平成23年度全国保育士養成協議会ブロック研究・研究費助成 1件 2012年度 財団法人子ども未来財団平成24年度児童関連サービス調査研究等事業 1件 財団法人日本社会福祉弘済会平成24年度社会福祉助成事業 1件 2013年度 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)(基礎研究C) 1件 財団法人子ども未来財団平成25年度児童関連サービス調査研究等事業 2件 平成25年度近畿ブロック保育士養成協議会研究費助成 1件 平成25年度植山つる児童福祉研究奨励基金研究助成 1件	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か。 科研費等補助金による研究については、授業や実習視察などで多忙な中も採択件数の増加や内容の充実など、年々活性化している。ただし一部の教員に偏っている点が課題である。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か。 外部研究費に関する情報を積極的に収集して教員に提供し、研究活動の促進に努める。	☆
		その他	☆
備考			☆

# 2014年度自己点検・評価報告書(シート)

【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

＜聖和短期大学＞

聖和短期大学は、 ☆印の箇所を記入してください。

## I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素は次のとおりである。

対象部局	聖和短期大学
大項目	6 社会的活動
中項目	
小項目	6.0.1 社会的活動への取組みが推進されていること
要素	社会的活動についての位置づけが明確にされているか。 社会人の受け入れに対して意欲的か。 地域社会に向けた公開講座、生涯学習授業、正規授業の開放等を実施しているか。 地域社会の行政、商工業、教育機関、文化団体等と効果的な交流活動を行っているか。
小項目	6.0.2 学生の社会的活動を促進していること
要素	ボランティア活動等を通じて地域社会に貢献しているか。 学生の社会的活動(地域活動、地域貢献、ボランティア活動等)に対して積極的に評価しているか。
小項目	6.0.3 国際交流・協力への取組みの努力がみられること
要素	留学生の受け入れ及び留学生の派遣(長期・短期)に対して意欲的か。 海外教育機関等との密接な双方向的交流を継続しているか。 教職員の留学、海外派遣、国際会議出席等は活発か。

## II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

### 《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。  
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。  
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。  
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 卒業生および保育者を対象とした研修会等の開催	→研修会等の実施状況	C	B	B	A	A
2. 地域の子育て家庭を対象としたオープンセミナー聖和キャンパス講座(幼児教育大学)の開催(教育学部、聖和幼稚園との共催)	→オープンセミナー実施状況	C	B	B	A	B
3. 「関西学院子どもセンター」における発達支援事業、子ども子育て支援事業、おもちゃとえほんのへや事業の充実	→「関西学院子どもセンター」事業の活動状況、学生ボランティアの活動状況	D	C	B	A	A

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					



《進捗状況(達成度)報告》 聖和短期大学は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	A	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、どのようにして、どれだけ取り組んできたか。</p> <p>夏の研修会の実施状況については次のとおりである。2010年8月28日(土)「群れ遊びで子どもが育つー心の「自然」を解放して生きる力に」(中川香子本学教授)参加者65名、2011年9月3日(土)※台風のため中止、2012年9月1日(土)「保育における絵本を考える～子どもの成長と絵本～」(正置友子絵本学研究所主宰)参加者49名、2013年9月7日(土)「今、保育に必要なもの」①今後の保育システムのあり方(西村重稀仁愛大学教授)、②保育現場におけるアレルギーへの対応について(丸山裕美子新宿区西戸山幼稚園)、③災害時のマニュアル作成の考え方について(千葉武夫本学教授)参加者118名</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か。</p> <p>夏の研修会については、テーマにより講演会形式、実践を含む講座形式等、工夫をしながら研修会を実施しているため参加者数にばらつきはあるが、今、保育に求められているテーマを設定しており、概ね好評である。ただし、開催時期については別の時期を要望する声もあるため、再検討する必要がある。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か。</p> <p>参加者にアンケート調査を行うなど、今後もニーズに合ったテーマを設定して研修会を企画していく。開催時期に対する要望を踏まえ、2014年度は初の試みとして11月に開催する予定である。</p> <p>その他</p>	☆
目標2	A	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、どのようにして、どれだけ取り組んできたか。</p> <p>聖和大学公開講座(幼児教育大学)を引き継ぐ形で、教育学部と共催のオープンセミナー聖和キャンパス講座を開催してきた。</p> <p>オープンセミナー(聖和キャンパス講座)の実施状況 2010年11月20日(土)参加者80名、2011年11月12日(土)参加者20名、2012年11月10日(土)参加者 親子18組42名、2013年9月21日(土)参加者親子20組47名</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か。</p> <p>教育学部と共催で聖和キャンパスオープンセミナーを開催してきたが、参加人数が減少傾向にある。20年前にスタートした聖和大学公開講座幼児教育大学は、「託児付きの講座」として当時としては先駆的な試みであったが、子育て支援が地域に浸透してきた今日、現在のオープンセミナーのあり方を抜本的に見直すことになった。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か。</p> <p>オープンセミナーは2014年度はいったん中止し、新たな方向性を模索することになった。</p> <p>その他</p>	☆

目標3	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、どのようにして、どれだけ取り組んできたか。</p> <p>関西学院子どもセンターは、聖和短期大学と関西学院大学に両属する施設であり、本学教員および関西学院大学教員で構成される委員会によって運営され、下記の3つの事業を展開している。各事業の活動状況は次のとおりである。</p> <p>① 地域の子ども・子育て支援事業(さぼさぼ)</p> <p>西宮市の「地域子育て支援拠点事業」の補助を受けて、2010年度よりひろば型として親子交流の場、相談援助、情報提供等を行ってきた。2012年9月以降はセンター型に移行し、従来の業務に加えてサービスのコーディネート、中間支援、社会資源開発を行う専門相談員を配置して実施している。また、利用者参加型イベント等も開催している。2013年度利用者は、年間延べ6,539組にのぼり、地域の親子、家庭を支える場所として機能している。</p> <p>② 発達支援事業(ういんぐ)</p> <p>発達に何らかの配慮を必要とする子どもと保護者に対して、適切なプログラム、療育を提供することで、地域、社会に貢献している。また、それらの子どもたちの個性と多様性が尊重されるために、教育、福祉分野の専門職向けの事例検討会や一般向けの公開プログラムを実施している。</p> <p>公開プログラム実施状況</p> <p>2010年7月24日(土)参加者72名、7月27日(火)参加者34名、2011年3月5日(土)参加者141名、7月23日(土)参加者123名、2012年3月3日(土)参加者290名、8月28日(水)参加者105名、2013年3月9日(土)参加者395名、8月6日(土)参加者89名、2014年3月1日(土)参加者365名</p> <p>③ おもちゃとえほんのへや事業</p> <p>上記2つの事業と異なり、主に学生のための体験型資料施設となっているが、地域に開かれた「せいわのもりおはなしの会」を実施している。このプログラムは、3歳～小学校就学前の地域の子どもを対象とした本学および教育学部学生によるおはなしの会で、実施状況は下記のとおりである。( )は幼児の参加者数</p> <p>2010年8月6日(金)(38名)、12月4日(土)(14名)、2011年8月3日(水)(46名)、12月3日(土)(12名)、2012年2月14日(火)(36名)、8月7日(火)(40名)、2013年2月19日(火)(52名)、2月20日(水)(63名)、9月17日(火)(26名)、2014年2月19日(水)(36名)</p> <p>なお、各事業には、本学学生がボランティアとして多数参加している。</p>	☆
	<p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か。</p> <p>各事業とも着実に事業を展開している。各事業の課題については、部会ごとに検討している。大学と短大に両属するため、連携をさらに促進する必要がある。</p>	☆
	<p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か。</p> <p>大学と短大の連携を促進するために、子どもセンターの各事業の委員となっている短大教員から活動状況を聞く機会を設ける。</p>	☆
	<p>その他</p>	☆
	備考	

# 2014年度自己点検・評価報告書(シート)

【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

《聖和短期大学》

聖和短期大学は、 ☆印の箇所を記入してください。

## I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素は次のとおりである。

対象部局	聖和短期大学
大項目	7 管理運営
中項目	
小項目	7.0.1 理事会等の学校法人の管理運営体制が確立していること
要素	学校法人の運営全般に理事長のリーダーシップが適切に発揮されているか。 理事会は寄附行為の規定に基づいて開催され、学校法人の意思決定機関として適切に運営されているか。 監事は寄附行為の規定に基づいて適切に業務を行っているか。 評議員会は寄附行為の規定に基づいて開催され、理事会の諮問機関として適切に運営されているか。 理事の構成に著しい偏りがないか。
小項目	7.0.2 教授会等の短期大学の運営体制が確立していること
要素	短期大学の運営全般に学長のリーダーシップが適切に発揮されているか。 教授会は学則等の規定に基づいて開催され、短期大学の教育研究上の審議(諮問)機関として適切に運営されているか。 学長もしくは教授会のもとに教育上の委員会等が設置され、規程に基づいて適切に運営されているか。
小項目	7.0.3 事務組織が整備されていること
要素	短期大学の事務部門の規模は適当か。また事務職員の任用は適切に行われているか。 短期大学の事務部門は事務諸規程等を整備し、それらの規程に基づいて適切に業務を行っているか。 事務処理のための事務室、情報機器、施設・備品等は整備されているか。 決裁規程に従って決裁処理が適正に行われているか。また公印や重要書類・データの管理、防災対策、情報システムのセキュリティ対策は適切か。 事務職員及びその組織は学生から支持され信頼されているか。 事務部門にS/D活動等を行う組織を設け、日常的に業務の見直しや事務処理の改善に努力しているか。具体的には事務職員の能力開発、事務能力の向上のため内部研修、外部への研修が活発に行われているか。
小項目	7.0.4 人事管理が適切に行われていること
要素	学校法人は教職員の就業に関する規程(就業規則、給与規程等)を整備し、それらを教職員に周知するとともにそれらの規程に基づいて適正に処理しているか。 学校法人(理事長、理事会)と教職員は、互いの立場を尊重しつつ協力する体制が整っているか。 教員と事務職員が互いの立場を尊重しつつ緊密に連携する雰囲気醸成されているか。 教職員の健康管理、就業環境の改善、就業時間の順守等は配慮されているか。

## II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」
1. 学長、学生主任、教務主任の各業務内容の整理および専決事項の策定。	→学長、学生主任、教務主任の各業務内容の整理、専決事項の検討及び策定状況
2. 電算システム変更に伴う事務処理の効率化および事務体制の再整備。	→電算システム変更に伴う事務体制の再整備による業務軽減の結果、減少する職員の超過勤務時間
3. 執行部と事務室の連携を促進、強化するための学長室会の定期的開催、教員と職員合同の研修会の開催。	→学長室会の開催状況、教員と職員合同の研修会の開催状況

進捗状況(達成度)評価				
2009	2010	2011	2012	2013
C	B	B	A	A
C	B	B	B	B
C	B	B	B	B

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」
	→
	→

2009	2010	2011	2012	2013
/	/	/	/	/
/	/	/	/	/

《進捗状況(達成度)報告》 聖和短期大学は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	A	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、どのようにして、どれだけ取り組んできたか。 合併後4年間の業務内容を整理し、運営組織の再編成を行った。2013年度より教務委員会、学生委員会、入試・広報委員会 が、各規程に則り毎月委員会を開催して業務を行い、教授会に議案を提出している。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か。 教務委員会、学生委員会、入試・広報委員会が定期的に開催されるようになったため、業務が整理され、短期大学の運営全 体がさらにスムーズに進められるようになった。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か。 教務委員会、学生委員会、入試・広報委員会がそれぞれの課題に積極的に取り組み、短期大学運営のさらなる充実を図 る。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆
目標2	B	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、どのようにして、どれだけ取り組んできたか。 聖和大学の廃止に伴い、2012年度に新電算システムを導入し、新たに学生のweb履修登録、教員のweb成績入力等を開 始した。実施に向けて周知徹底を図るため、学生、教職員対象の事前説明会を行った。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か。 web履修登録やweb成績入力の実施に向けて、学生、教職員対象の事前説明会や個々の対応が必要となったが、導入 後、徐々に事務の効率化、業務軽減の方向に進んでいる。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か。 新システムの機能をさらに活用するため、学生カルテシステムなどの可能性について検討するなど、さらなる事務の効率化 を図る。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆
目標3		<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、どのようにして、どれだけ取り組んできたか。 学長室会は、学長、学生主任、教務主任、聖和キャンパス事務室課長(短期大学担当)および課長補佐が出席して、毎週水 曜日に開催し、業務内容やスケジュール等の確認、各種案件について協議を行っている。2010年度は47回、2011年度は41 回、2012年度は34回、2013年度は35回開催した。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か。 運営組織の再編成により、学長室会での協議内容等の整理が進み、さらに効率的に運営できるようになった。教員と職員の 合同研修会については、職員の業務の関係などもあり、定期的な開催に至っていない。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か。 教員と職員の合同研修会の定期的な開催と参加を促進し、教育理念や目標の共有と短期大学運営における連携を深める。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆
備考			☆

# 2014年度自己点検・評価報告書(シート)

## 【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

### ＜聖和短期大学＞

聖和短期大学は、 ☆印の箇所を記入してください。

#### I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素は次のとおりである。

対象部局	聖和短期大学
大項目	8 財務
中項目	
小項目	8.0.1 財務運営が適切に行われていること
要素	<p>学校法人及び短期大学は、中・長期計画に基づいた毎年度の事業計画と予算を、関係部門の意向を集約し、適切な時期に決定しているか。また、決定した事業計画と予算は速やかに関係部門に伝達しているか。</p> <p>年度予算は、適正に執行されているか。日常的な出納業務は円滑に実施され、所管担当責任者を経て理事長に報告されているか。</p> <p>決算終了後の計算書類、財産目録等は、法人の経営状況及び財政状態を適正に表示しているか。これに係る監事の機能は有効に働いているか。また、公認会計士の監査意見への対応は適切か。</p> <p>資産及び資金(有価証券を含む)の管理と運用については、資産等の管理台帳、資金出納簿などに適切な会計処理に基づいて記録され、安全かつ適正に管理されているか。また、寄付金の募集及び学校債の発行は適正か。</p> <p>月次試算表が毎月適時に作成され、財務担当責任者を経て理事長に報告されているか。</p> <p>改正私立学校法の規定に基づき、財務情報を適切に公開しているか。</p>
小項目	8.0.2 財務体質が健全であること
要素	<p>学校法人及び短期大学の経営の状況(資金収支及び消費収支)は、評価を受ける過去3ヶ年にわたり均衡しているか。消費収支計算における収入超過または支出超過の状況について、その理由を把握しているか。</p> <p>学校法人の財政状態(貸借対照表)は健全に推移しているか。短期大学の経営状況が法人の財政にどのような影響を与えているかを把握しているか。</p> <p>短期大学の永續を可能とする学校法人の資金は、健全に維持されているか。余裕資金については、将来計画を見込んで目的別に引当資産化しているか。単に現金のみを留保資金が集中していないか。</p> <p>短期大学の教育研究経費は、評価を受ける過去3ヶ年の平均が帰属収入の2.0%程度を超えているか。短期大学に係る教育研究用の施設設備及び学習資源(図書等)についての配分は適切か。</p> <p>財務体質は定員充足率いかににかかっており、過去3ヶ年の平均及び直近年度の充足は妥当か。過去3ヶ年の収容定員充足率に相応した財務体質を維持しているか。</p>
小項目	8.0.3 短期大学に必要な施設設備が整備され、その管理が適切に行われていること
要素	<p>固定資産管理規程、図書管理規程、消耗品及び貯蔵品管理規程等の財務諸規程を含め整備し、施設設備、物品(消耗品、貯蔵品等)を適切に管理しているか。</p> <p>施設設備の維持管理について、火災等災害対策、防犯対策、避難対策に対処した整備及び定期的な点検訓練がなされているか。コンピュータシステムのセキュリティ対策は適切か。</p> <p>施設設備の維持管理において、省エネ・省資源対策、その他地球環境保全の配慮がなされているか。</p>

#### II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

##### 【進捗状況(達成度)評価】

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。  
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。  
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。  
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 法人全体として強固な財政基盤を確保するため、以下の目標を設定する。 ①帰属収支差額比率：10.5% ②純人件費比率：52.3% (過去5年間平均) ③総人件費比率：56.4% (過去5年間平均) ④教育研究経費比率：3.3%程度を維持 ⑤寄付金比率：3.0% (2007年度全国平均) を目指す	→①帰属収支差額比率、②純人件費比率、③総人件費比率、④教育研究経費比率、⑤寄付金比率	C	C	C	C	C
2. 法人としての新基本構想のビジョン実現および資金の有効活用の視点から内部監査を実施し、業務および会計処理の改善を行う。	→内部監査の結果、指摘・提言に対する改善状況	A	A	A	A	A
★						
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

【進捗状況(達成度)報告】 聖和短期大学は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	<p><b>Do:</b> 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、どのようにして、どれだけ取り組んできたか。</p> <p>2010年度に財務・業務改革本部において、強固な財務基盤の確立のため、実現可能性のある健全な財務評価指標(目標値)を次のとおり設定した(当財務指標については、2009年度に設定したもものから、実現可能性のある健全な財務評価指標に再設定した)。</p> <p>① 帰属収支差額比率: 8.0%以上          ② 純人件費比率 : 54.7%(消費収支計算における帰属収入に占める人件費の割合)          ③ 総人件費比率 : 59.0%(消費収支計算における帰属収入に占める人件費および業務委託費の割合)          ④ 教育研究経費比率: 33.0%          ⑤ 寄付金比率 : 3.0%</p> <p>2009年4月に法人と大学が一体となった「財務・業務改革本部」を設置し、新基本構想・新中期計画を実現するための「財源確保」と、学院が持続するための「強固な財務基盤の確立」を目的として、収支対応事業の「事業内容見直し」や「収入単価の改定」、大口経費予算の内容見直し、2009年度・2010年度各部課経費予算の一律削減等によって、支出削減を実施した。</p> <p><b>Check:</b> 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か。</p> <p>2013年度の帰属収支差額比率は、11.7%となった。単年度の特殊要因(合併や退職給与引当金特別繰入等)を除いた場合、2009年度以降、様々な経費削減策に取り組んだことにより、帰属収支差額比率が、毎年度目標を上回る一方で、教育研究経費比率については目標を下回る結果となった。2013年度の人件費については、大学教員組合との2009・2010年度賞与団交が妥結したことによって、当該年度の賞与を2013年度にまとめて支払ったため増加し、純人件費比率では53.0%と目標に収まったものの、総人件費比率は59.1%と目標を超過した。寄付金比率は、2009年度以降、2%前後の水準で推移しており、2013年度も2.0%となった。創立125周年記念募金事業を2009年度から実施しているが、募金目標50億円に対して、2013年度末時点の申し込み状況は、24億円といった状況にある。2008年度リーマンショック以降、厳しい経済環境の中で法人からの寄付が想定を大きく下回ったことが主な要因と考えられる。現在、経済環境は徐々に持ち直してきているものの、寄付の増収を見込めるまでには至っていない。</p> <p><b>Action:</b> 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か。</p> <p>2013年度末の翌年度繰越消費支出超過額は6,311百万円で、帰属収入に占める割合は、16.2%となった。今後、支出面では、「消費税率の改定」や「経済環境の好転に伴う物価上昇」等による負担増や、(後期)新中期計画の実施に伴い、支出の増加が予測される。これに伴い、教育研究経費比率の増加が見込まれるが、収支状況については、現在の収入構造に変化がない場合、今後、第4次中長期建設計画(2013-2018)の進行とともに、翌年度繰越消費支出超過額はさらに拡大し、2018年度には13,825百万円まで悪化していくと予想している。少子化等による受験者数の減少や、他校との厳しい受験生獲得競争の中で入学検定料による収入増を望むことは難しく、寄付金や補助金等の収入についても多くは期待できない状況においては、学生生徒納付金確保のための収容定員充足の徹底や、学費改定等による収入増加策の検討・実施、「経費削減や既存事業の見直し等により新規事業の財源を捻出する原則」の徹底が必要である。</p> <p><b>その他</b></p> <p>2012年10月に、財務・業務改革本部において、(後期)新中期計画(2014-2018)の財源確保と強固な財務基盤の確立を目的として以下のとおり、2018年度末での目標値を設定した。</p> <p>① 翌年度繰越消費支出超過額および借入金残高合計が帰属収入に占める割合50%未満          ①-1 翌年度繰越消費支出超過額比率 25%未満          ①-2 借入金残高比率 25%未満          ② 帰属収支差額比率 8%以上          ③ 教育研究経費比率 33%以上</p>	☆
目標2	<p><b>Do:</b> 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、どのようにして、どれだけ取り組んできたか。</p> <p>2009年度に、「新基本構想のビジョン実現及び資金の有効活用の視点から内部監査を実施し、業務及び会計処理の改善を図る」という目標を設定し、翌年度(2010年度)以降2013年度までの各年度において、5~8の部局を対象とした部局ごとの業務・会計監査、および補助金事業の監査を実施した。</p> <p>いずれも、部局の業務・会計監査については、指摘・提言事項に対して改善に向けての回答を入手している。</p> <p><b>Check:</b> 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か。</p> <p>部局の業務・会計監査については、指摘・提言事項に対して翌年度以降改善あるいは改善中であるが、8年間で全部署の監査が一通り終了するペースであった。</p> <p>科学研究費補助金・受託研究費事業の監査については、文部科学省の「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン」の定めに沿った監査を実施した。</p> <p><b>Action:</b> 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か。</p> <p>部局の業務・会計監査については、これまでの8年間で全部署の監査が一通り終了するペースから、5年程度で一通り終了するペースで、翌年度以降の計画を検討していく必要がある。</p> <p>科学研究費補助金・受託研究費事業の監査については、文部科学省の「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン」の改正が2014年2月に公表され、リスクアプローチ監査等、2014年度中に取り組むものについて、検討する必要がある。</p> <p><b>その他</b></p>	☆
備考		☆

# 2014年度自己点検・評価報告書(シート)

【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

《聖和短期大学》

聖和短期大学は、  ☆印の箇所を記入してください。

## I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素は次のとおりである。

対象部局	聖和短期大学
大項目	9 改革・改善
中項目	
小項目	9.0.1 自己点検・評価活動の実施体制が確立していること
要素	自己点検・評価のための規程及び組織を整備し、定期的に自己点検・評価を行っているか。 定期的に自己点検・評価報告書が公表されているか。
小項目	9.0.2 改革・改善のためのシステム構築への努力がみられること
要素	自己点検・評価活動には出来るだけ多くの教職員が関与するよう配慮されているか。 自己点検・評価の成果を出来るだけ活用するよう配慮しているか。
小項目	9.0.3 相互評価(独自に行う外部評価を含む。以下、評価の観点も同じ)への取組みに努力していること
要素	前の第三者評価から今回までの間に相互評価を実施したか。 相互評価のための規程及び組織を整備し、定期的に相互評価を行っているか。 相互評価の成果を出来るだけ活用するよう配慮しているか。

## II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

### 《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 毎年の自己点検・評価の実施	→目標、指標の設定。毎年の自己点検・評価報告書の作成。2013年度の認証評価報告書作成。	C	B	B	A	A
2. 専門領域を同じくする松山東雲短期大学との相互評価の継続と結果の活用	→定期的な検討会の実施状況。検討の進捗状況。報告書作成。	C	B	B	A	A

☆

  

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

### 《進捗状況(達成度)報告》 聖和短期大学は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	A	<p><b>Do:</b> 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、どのようにして、どれだけ取り組んできたか。</p> <p>関西学院の自己点検・評価制度の下、毎年、自己点検・評価を実施している。短期大学自己評価委員会を中心に、聖和短期大学自己点検・評価実施要領に基づいて進捗状況報告シートを作成し、評価専門委員会による評価(学内第三者評価)を受け、評価結果をホームページ上で公表している。短期大学基準協会による2014年度機関別認証評価受審に向けて、2013年2月に自己点検・評価報告書作成委員会を立ち上げ、全教員で報告書作成に取り組み、2014年6月末に短期大学基準協会に報告書を提出した。</p>	☆
		<p><b>Check:</b> 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か。</p> <p>関西学院の評価制度の下、毎年、自己点検・評価報告シートを作成し、学内第三者評価を受けることによって、合併後の短期大学のあり方について、項目ごとに再検討する良い機会となった。年度末に、教員が自分の担当する校務分掌について報告書を提出することにより、それぞれの担当分野における点検・評価を行っているが、評価結果の次年度以降の活用について全体的な話し合いができていない。</p>	☆
		<p><b>Action:</b> 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か。</p> <p>全教員が毎年の自己点検・評価に関与し、その成果を活用できるシステムの構築をめざす。また、現在の評価項目は、2009年度時の短期大学基準協会の評価項目に基づいて設定しているため、今後は2012年度に改定された短期大学基準協会の基準に準拠した項目をもとに、さらに充実した自己点検・評価を実施していく。</p>	☆
		<p>その他</p>	☆
			☆

目標2	A	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、どのようにして、どれだけ取り組んできたか。 松山東雲短期大学と大学間相互評価の協定を結び、継続的に相互評価を実施している。2011年度に本学が松山東雲短期大学の評価を行い、相互評価結果報告書を作成した。2012年度は松山東雲短期大学が本学の評価を、2013年度は本学が松山東雲短期大学の評価を行った。現在、結果報告書を作成中である。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か。 領域に分けて継続的に相互評価を行っているが、その成果の活用が課題となっている。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か。 これまでの相互評価の総括と成果の活用について、また今後の相互評価のあり方について再検討する。	☆
		その他	☆
			☆
備考			☆



# 2014年度自己点検・評価報告書(シート)

## 【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

### 《聖和短期大学》

聖和短期大学は、 ☆印の箇所を記入してください。

#### I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素は次のとおりである。

対象部局	聖和短期大学
大項目	10 キリスト教主義教育
中項目	
小項目	10.0.1 キリスト教主義教育を行うための組織・体制は適切か。
要素	
小項目	10.0.2 キリスト教主義教育は、本学の使命・目的に照らして適切に行っているか。
要素	(RG1)方針、実施内容

#### II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

##### 《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。  
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。  
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。  
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. オリエンテーション、授業、学校礼拝、諸行事等によるキリスト教主義教育の実践	→オリエンテーション、授業、学校礼拝、諸行事等の実施状況。	C	B	A	A	A
2. 教職員に対する研修会の開催。学校礼拝、諸行事などへの積極的な参加。	→研修会の実施状況、学校礼拝、諸行事への参加状況。	D	C	B	A	A
☆						
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

##### 《進捗状況(達成度)報告》 聖和短期大学は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	A	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、どのようにして、どれだけ取り組んできたか。 毎年、新入生対象のオリエンテーション礼拝を行っている。また「キリスト教学」(1年)「キリスト教保育」(2年)を卒業必修科目として教育課程に位置づけている。学校礼拝は、原則として授業日は毎日行い、木曜日は50分間のロングチャペルを実施している。またイースター、ペンテコステ、収穫感謝、クリスマス等の特別礼拝の他に、学院内外のゲストを招いて多様な礼拝を実施している。特に月曜日礼拝では、司会、聖書朗読、奏楽を学生が担当するなど、学生が礼拝に参加する機会が増えている	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か。 特にロングチャペルは多くの学生が出席している。また月曜日礼拝はゼミ・アドバイザークラスの担当が定着してきた。これらにより学生が積極的に礼拝に参加するようになった。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か。 宗教主事、アドバイザー、キリスト教関係科目担当者間の連絡を密に行い、連携をさらに進める。今後も学生教職員が参与し、また参加しやすい礼拝の内容、方法をさらに検討していく。	☆
		その他	☆

目標2	A	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、どのようにして、どれだけ取り組んできたか。 キリスト教主義教育に関する研修会の実施については、キリスト教学校教育同盟大学部会の研修会およびキリスト教教育・保育研究センターが開催する公開講座や研究会への参加を呼びかけている。 研究会開催状況および短期大学教員の参加状況は、次のとおりである。2010年度 3回 延べ11名、2011年度 4回 延べ13名、2012年度 4回 延べ15名、2013年度 3回 延べ13名 学校礼拝、諸行事への教職員の参加については、毎月の教授会において宗教主事より礼拝等の案内や報告が行われていることもあり、教員の学校礼拝への協力が進んでいる。特に月曜礼拝は各ゼミ・アドバイザークラスの学生が司会、聖書朗読、奏楽を担当するため、教員も一緒に参加している。また、クリスマス礼拝は、教員全員が歌や演奏などを担当し、全学年の学生と共に礼拝を守っている。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か。 キリスト教教育・保育研究センターが研究会を定期的に開催し、本学教員の参加も少しずつ増えている。また、学校礼拝への協力をおとして、教員のキリスト教主義教育への意識も高くなっている。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か。 短大教職員を対象としたキリスト教主義教育に関する学内研修会の開催を検討する。	☆
		その他	☆
			☆
備考		☆	

# 2014年度自己点検・評価報告書(シート)

## 【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

### 《聖和短期大学》

聖和短期大学は、 ☆印の箇所を記入してください。

#### I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素は次のとおりである。

対象部局	聖和短期大学		あ
大項目	11 人権教育・人権問題		
中項目			
小項目	11.0.1 人権教育は、本学の使命・目的に照らして適切に行っているか。		
要素	(KG1)方針、実施内容		
	(KG2)人権意識の涵養とその現状		
小項目	11.0.2 人権問題への対応を適切に行っているか。		
要素	(KG1)ハラスメント防止のための措置の適切性		
	(KG2)セクシャル・ハラスメント防止への対応		
	(KG3)アカデミック・ハラスメント防止への対応		
	(KG4)その他ハラスメント防止への対応		
	(KG5)人権侵害の防止とその対応		

#### II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

##### 《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 人権に関するオリエンテーションおよびパンフレットの充実	→オリエンテーションの実施状況およびパンフレットの検討の進捗状況。	C	B	B	B	B
2. 保育者としての人権意識を涵養するための教育の検討	→人権関連科目の履修状況、授業内容の検討状況。	C	C	B	A	A
3. ハラスメントに関する相談ルートの整備および周知徹底。	→ハラスメントに関する相談ルートの整備状況および学生への周知。	C	B	A	A	A
4. 教職員の人権関連研修会への積極的参加	→研修会への参加状況	C	C	B	B	A

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

##### 《進捗状況(達成度)報告》 聖和短期大学は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、どのようにして、どれだけ取り組んできたか。 あらゆる人権侵害をゆるさない保育者になることをめざし、新入生オリエンテーション、アドバイザーアワー(学生生活全般について相談・助言をしたり、学生相互が交流する場として活用)、「子どもと人権」の授業、学校礼拝をとおして学生の人権意識の啓発に取り組んでいる。人権に関するパンフレットは作成できていないが、入学時に配付する「要覧」にキャンパスハラスメントについて記載している。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か。 オリエンテーションや授業、学校礼拝等を通して、人権意識の向上に努めているが、現在は、「要覧」にキャンパスハラスメントについて記載するにとどまっているため、人権全般に関するパンフレット作成が課題である。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か。 パンフレットを作成して、さらなる人権意識の向上に努める。	☆
		その他	☆
			☆

目標2	A	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、どのようにして、どれだけ取り組んできたか。 免許・資格取得には「子どもと人権」が必修科目となっているためほぼ全員が履修をしているほか、保育者養成に関する科目には人権に係る内容を含んだものが多く、学生たちは各教科内容をとおして人権について具体的に学んでいる。また入学前教育のひとつとして「全国保育士会倫理綱領ガイドブック」を読んで感想文を提出するなど、入学前より人権意識を高めるよう努めている。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か。 人権に関する特定の授業だけでなく、保育者養成に関する科目全般に人権に係る内容が含まれているため、学生は具体的に、また多面的に人権意識を向上させることができている。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か。 保育者に必要な子どもの権利擁護に対するワークショップ等を検討する。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆
目標3	★	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、どのようにして、どれだけ取り組んできたか。 ハラスメントに関する相談ルートを作成し、2名の人権相談担当者が対応している。学生に対しては、「要覧」にキャンパス・ハラスメントの防止と被害を受けた場合の相談ルート等を記載し、新入生オリエンテーションにおいて説明を行っている。相談ルートについては常時掲示もしている。ホームページでの公表について、検討中である。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か。 ハラスメントに関する相談ルートおよびその周知については整備できたため、実際に、人権に関する相談が数件あり、ルートにそって対応を行うことができた。ただし、ハラスメント防止の啓発については、十分ではない。またホームページでの公表については検討しているが、未実施である。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か。 人権に関するパンフレットを作成してハラスメント防止の啓発に努める。また相談ルートの点検を定期的に行う。ホームページでの公表に向けて、準備を進める。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆
目標4		<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、どのようにして、どれだけ取り組んできたか。 短大教職員対象の人権研修会の開催状況は次のとおりである。2011年10月19日(水)「関西学院大学の人権教育」(講師: 関西学院大学人権研究室室長 舟木謙) 参加者14名、2012年12月10日(月)「福島原発100kmの地で生きる」(講師: 会津放射能情報センター・福島の子もたちを放射能から守る会代表 片岡輝美) 参加者11名、2013年11月11日(月)「沖縄から見る子どもたちの平和と人権」(講師: 沖縄キリスト教学院学習センター 糸洲理子) 参加者9名</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か。 講師の都合により、教員が参加しにくい日程の年度があった。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か。 全教職員が参加できるように研修会を早めに計画し、日程を学年暦に記載する。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆
備考			☆

# 2014年度自己点検・評価報告書(シート)

## 【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

### 《聖和短期大学》

聖和短期大学は、 ☆印の箇所を記入してください。

#### I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素は次のとおりである。

対象部局	聖和短期大学
大項目	12 ボランティア活動・教育
中項目	
小項目	12.0.1 ボランティア活動・教育は、本学の使命・目的に照らして適切に行っているか。
要素	(KG1)方針、実施内容
	(KG2)ボランティア活動実践への対応
	(KG3)ボランティア活動に関する課題の把握
	(KG4)ボランティア教育の現状

#### II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

##### 《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。  
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。  
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。  
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. ボランティア活動の意義についてのしおりの作成と活用	→しおりの内容の検討と作成。配付。	D	C	B	A	A
2. ボランティア活動実施のための情報提供、支援体制の整備	→学生のボランティア活動への参加状況、情報提供の件数。	D	C	B	A	A

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

##### 《進捗状況(達成度)報告》 聖和短期大学は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	A	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、どのようにして、どれだけ取り組んできたか。 昨年作成した「ボランティアのしおり」を今年度も配付し、特に新入生オリエンテーションにおいてボランティアの意義や諸注意などについて説明を行った。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か。 「ボランティアのしおり」を配布し、説明を行ったことによって、学生がボランティア活動に取り組もうという意識が向上した。	☆
		「ボランティアのしおり」をより充実した内容になるように検討をする。	☆
		その他	☆

目標2	A	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、どのようにして、どれだけ取り組んできたか。 学生のボランティア活動状況については、聖和幼稚園の預かり保育や病弱児保育、関西学院子どもセンターの発達支援事業、地域の子ども・子育て支援事業、おもちゃとえほんのへや事業(せいわのもりのおはなし会)、西宮YMCAの発達障がい児の「ことば」のプログラムなどに毎年参加している。またその他単発の行事補助ボランティアにも参加している。学生が提出したボランティア活動報告書による2012年度のボランティア参加学生総数は延べ103名、2013年度は延べ192名であった。情報提供については、聖和キャンパス事務室が管轄するボランティア募集掲示板にて知らせている。また幼稚園や保育所、施設等でのボランティアについては、キャリアセンターや実習支援室をとおして募集を行うこともある。 ☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か。 情報提供については、聖和キャンパス事務室が管轄するボランティア募集掲示板にて知らせている。また幼稚園や保育所、施設等でのボランティアについては、キャリアセンターや実習支援室をとおして募集を行っていたが、今後はボランティアの募集等が統一した形でできるように検討する。 ☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か。 学生がボランティアサークル等を自主的に作れるような支援体制を検討する。 ☆
		その他 ☆
備考		☆

# 2014年度自己点検・評価報告書(シート)

## 【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

### 《聖和短期大学》

聖和短期大学は、 ☆印の箇所を記入してください。

#### I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素は次のとおりである。

対象部局	聖和短期大学
大項目	13 国際交流
中項目	
小項目	13.0.1 国際交流(国内外における教育研究交流)についての方針を明示しているか。
要素	(KG1) 国際化への対応と国際交流の推進に関する基本方針の適切性
小項目	13.0.2 国際交流(国内外における教育研究交流)を適切に行っているか。
要素	(KG1) 国際レベルでの教育研究交流を緊密化させるための措置の適切性
小項目	13.0.3 国際教育・協力を適切に行っているか。
要素	(KG1) 国際理解のための教育
	(KG2) 国際協力の実践

#### II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

##### 《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。  
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。  
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。  
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 短期大学における国際理解のための教育および国際交流に関する基本方針の明確化	→国際理解のための教育および国際交流に関する基本方針の策定	D	D	D	D	D
2. グローバル化した阪神間の地域特性に合わせた国際感覚やコミュニケーション能力をもった保育者を育てるための教育の推進	→国際理解に関連する授業、学校礼拝、その他のプログラムの実施状況	D	D	C	C	C
		☆				
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

##### 《進捗状況(達成度)報告》 聖和短期大学は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	D	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、どのようにして、どれだけ取り組んできたか。 国際理解のための教育および国際交流に関する基本方針は策定できていない。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か。 世界市民の育成をめざす関西学院の学校として、短期大学の国際化への対応と国際交流の推進に関する基本方針が策定できていないことは大きな課題である。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か。 学院や大学に協力をお願いし、早急に短期大学の国際化への対応と国際交流の推進について検討する。	☆
		その他	☆

目標2	C	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、どのようにして、どれだけ取り組んできたか。 免許・資格関係科目で過密化しているカリキュラム編成上、国際理解に関する科目を単独で設置することは非常に困難であるため、既存の授業の中で海外からの研修生を招いたり、学校礼拝で海外ボランティア経験のある卒業生の体験談を聞くなど、学生の国際理解につながる機会を積極的に設けている。海外研修旅行については、プログラム提供に向けて検討しているが、実習等との関係で日程調整が難しく、実現に至っていない。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か。 カリキュラム上の困難はあるが、外国籍の人とのコミュニケーション能力を持った保育者を育てるための教育内容・方法、プログラムについて検討が必要である。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か。 二年間の学びの中で可能な多様なプログラム等について、さらに検討する。	☆
		その他	☆
			☆
備考			☆



# 2014年度自己点検・評価報告書(シート)

## 【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

### << 聖和短期大学 >>

聖和短期大学は、 ☆印の箇所を記入してください。

#### I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素は次のとおりである。

対象部局	聖和短期大学
大項目	14 危機管理
中項目	
小項目	14.0.1 危機管理の体制を適切に整備しているか。
要素	

#### II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

##### 《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 短期大学が管理すべき危機の整理、検討および危機管理の基本方針、体制の確立	→ 危機管理基本方針の策定および実施マニュアルの作成の実施状況	C	B	B	B	B
2. 全構成員の危機管理意識向上のための研修会および避難訓練等の開催	→ 研修会および避難訓練等の実施状況	D	D	C	C	B
		☆				
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

##### 《進捗状況(達成度)報告》 聖和短期大学は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、どのようにして、どれだけ取り組んできたか。 西宮聖和キャンパス全体として、関西学院の火災・地震対策、防犯対策関連規程に基づいて定期的な点検を行っている。また被害を最小限にとどめるため、自衛消防隊を編成している。学内で発生した事故や急病については「関西学院救急マニュアル(西宮聖和キャンパス版)」を作成し、短期大学事務室に設置している。また学生に配付する「要覧」に避難経路、避難場所およびAEDや非常通報装置設置場所を記載し、学内での緊急時における対応についてオリエンテーション等で説明を行っている。コンピューターシステムのセキュリティ対策については、関西学院大学情報環境機構、西宮聖和キャンパス情報メディア室が中心となり適切な対策を実施している。また、「要覧」にソーシャルメディア利用についての注意喚起を掲載し、学生に注意を呼びかけている。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か。 関西学院救急マニュアル(西宮聖和キャンパス版)について、設置はしているものの、学生、教職員に対して具体的内容についての周知をさらに図っていく必要がある。西宮聖和キャンパス全体で検討すべき危機管理、特にすべての災害に対応可能なマニュアルが作成できていない。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か。 自衛消防隊の編成の見直しやマニュアル作成等について、西宮聖和キャンパス全体で早急に取り組む。	☆
		その他	☆
			☆

目標2	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、どのようにして、どれだけ取り組んできたか。 2013年に教職員を対象とした防火訓練を実施した。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か。 西宮聖和キャンパス全体の避難訓練が実施できていない。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か。 2014年10月に聖和キャンパス全体の避難訓練を実施する予定である。	☆
		その他	☆
備考			☆